

# 医学系研究科

## 片品村 関節と痛みの検診

担当学部等 医学系研究科  
担当学科等 整形外科学分野  
担当者 高岸 憲二 教授

### ◎事業概要

高齢者の健康寿命を延ばすことが喫緊の課題である現在わが国の超高齢社会では、骨粗鬆症、変形性関節症、筋量減少症等の運動器疾患が、要介護認定者数を増加させる主な原因であることが知られている。しかしこれらの発生増悪を早期予測する客観的評価指標が未確立の現在、個々の運動器を実際に評価し、各運動変性疾患の状態を把握し、個々の運動器状態に応じた生活指導、運動指導を行うことは重要と思われる。

片品村が毎年4月(5日間)に主催する総合検診に帯同し、運動器検診(片品村 関節と痛みの検診)を行った。総合検診を受診する地域住民の中で、本事業への参加を希望し同意を得られた方を対象とした。運動器疾患、ADL、QOLに関する問診と簡単な理学所見、および超音波検査による運動器検診、また超音波骨密度検査器により踵骨骨密度測定を行った。また運動器単純レントゲン写真撮影を行い、個々の運動器変性状態を把握し、個々の状態に応じた生活指導、運動指導を行い、ADL、QOLの低下、転倒の予防、運動器変性疾患の予防を図り、「健康寿命」の充実促進を目的とする。また適切な医学的加療が必要と思われる対象に対しては、医療機関の受診指導を行う。

### ◎実施事業等

H26年4月16日、17日、18日、22日、23日の5日間、片品村が主催する総合検診に帯同し、運動器検診(片品村 関節と痛みの検診)を行った。

- ①超音波骨密度検査器により踵骨骨密度測定を行った。
- ②超音波機器を用い膝関節検診を行い変形性関節症評価を行った。
- ③握力、手指ピンチ力検査を行った。
- ④スパイナルマウス®を用い対象者の全脊椎のアライメント評価検査を施行した。
- ⑤腰椎単純レントゲン写真を撮影し腰椎変性すべり症、腰椎変性側弯症の疫学調査を行った。
- ⑥EuroQOL、ロコモティブシンドロームチェック質問票、足腰指数25、日本整形外科学会腰椎疾患質問票、FRAX®(脆弱性骨折を予測する質問票)等の問診を行い、日常生活におけるQOL、ADLの評価並びに運動器疼痛愁訴として頻度の高い腰椎疾患に関する調査をおこなった。
- ⑦運動器疾患に質問、相談をおこなった。
- ⑧運動器リハビリ指導をおこなった。

### ◎期待される成果

- ①超音波骨密度検査器により踵骨骨密度評価を行うことにより、骨粗鬆症に対し住民の関心を高めることができ、脆弱性骨折の予防に寄与することが期待される。
- ②超音波を用いた膝関節検診は変形性膝関節症を簡便に評価することができる新しい診断ツールであり、膝関節症状を有する住民にとって病態をリアルタイムに理解しやすくなることが期待される。
- ③簡便に筋力を測定できる握力、手指ピンチ力を客観的に評価することは、住民の筋力増進、筋力維持へ重要性を再認識することができる。
- ④、⑤、⑥超高齢社会に突入した本邦において、加齢性変化を基盤とした成人脊柱変形に遭遇する機会は増加していると思われる。成人脊柱変形(腰椎変性すべり症、腰椎変性側弯症)の疫学を調査し、同疾患に関するQOL、ADLを評価することは、健康寿命の充実促進を実現するための一助になりうることを期待される。
- ⑦、⑧運動器疾患に関する住民の相談に答えること、個々の住民に応じたりハビリ指導を行うことは、住民のQOL、ADLを高め、健康寿命の充実促進を実現するための一助になりうることを期待される。